

教科	福祉	科目	介護福祉基礎	単位数	2	学年	2	科	生活福祉科
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、人間の尊厳を支え自立支援を行うために必要な基礎的な資質・能力を育む。

2、使用教科書・副教材

・実教出版「介護福祉基礎」

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数	
一学期	4月	I 授業オリエンテーション	中間考查	1	
	5月	II 介護の意義と役割		9	
	6月	1 尊厳を支える介護			
	7月	2 介護従事者の倫理			
二学期		III 介護を必要とする人の生活環境	期末考查	8	
		1 介護と環境			
		2 自立に向けた介護			
	8月	III 介護を必要とする人の理解と介護 高齢者の生活と介護		中間考查	9
	9月	1 生活支援 2 生活を支える介護			
	10月	IV 介護福祉サービスの概要と連携 介護サービスの概要		期末考查	6
11月	1 介護サービスの利用方法		7		
	2 介護サービス提供の場の特性（在宅）				
	3 居宅介護サービス（福祉系）				
	4 居宅介護サービス（医療系）				
三学期	12月	V 介護福祉サービスの概要と連携 介護における連携	学年末考查		10
	1月	1 多職種連携とチームケア		5	
		2 介護と医療			
	2月	3 介護支援専門員とケアチームの連携 4 介護従事者とボランティアとの連携		5	

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の説明や発問はできるだけ分かりやすく的確な言葉で行い、自分で考えた意見を、自分の言葉で発表ができる。 簡単な論述やディスカッションを行うことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げた事例を、自分の立場に置き換えて考えることができる。 発問に対する解答、それにいたる思考過程、反応をみる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語やその意味を理解することができる。 履修内容が理解できているか確認する。（考查、発問に対する解答、課題提出等）
技能	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション、発表ができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業態度、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

2年生では高齢者施設や幼稚園での実習があります。そのために必要な知識を学び、施設実習でよりよい学びを得ることができるよう、毎回の授業を大切に受けてください。

教科	福祉	科目	社会福祉基礎	単位数	2	学年	2	科	生活福祉科
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

社会福祉に関する基礎的な知識を学び、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を習得させる。

2、使用教科書・副教材

・実教出版「社会福祉基礎」

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	I 授業オリエンテーション		1
	5月	II 生活を支える社会福祉・社会保障制度	中間考查	9
	6月	4 高齢者福祉		
	7月	3 障害者福祉	期末考查	10
二学期	8月	3 障害者福祉	中間考查	15
	9月			
	10月	5 生活支援のための公的扶助 6 国民生活を支える社会保障制度		
	11月	III 人間関係とコミュニケーション 1 コミュニケーションの基礎 2 援助における人間関係の形成 3 社会福祉援助活動の概要	期末考查	15
三学期	12月	IV 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	学期末考查	20
	1月	1 地域福祉の進展と地域の将来		
	2月	2 多様な社会的支援制度		
	3月	3 社会福祉の将来と福祉の担い手		

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の説明や発問はできるだけ分かりやすく的確な言葉で行い、自分で考えた意見を、自分の言葉で発表ができる。 簡単な論述やディスカッションを行うことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げた事例を、自分の立場に置き換えて考えることができる。 発問に対する解答、それにいたる思考過程、反応をみる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語やその意味を理解することができる。 履修内容が理解できているか確認する。(考查、発問に対する解答、課題提出等)
技能	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション、発表ができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業態度、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

2年生では、障がいがある方への支援、福祉の制度を中心に学んでいきます。障がいの原因とその形態に合わせた介護の知識を得た上で、個人に合った支援を提供できるよう、予習や復習を欠かさず授業に臨んでください。

教科	福祉	科目	コミュニケーション技術	単位数	2	学年	3	科	生活福祉科
----	----	----	-------------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、対人援助や福祉実践の場での人間関係の構築に必要な資質・能力を育む。

2、使用教科書・副教材

実教出版 「コミュニケーション技術」

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	1 授業オリエンテーション	考查はおこなわない	20
	5月	2 サービス利用者に応じたコミュニケーション技法を学ぶ①		
	6月	3 サービス利用者に応じたコミュニケーション技法の実践①		
	7月	4 サービス利用者に応じたコミュニケーション技法を学ぶ②		
二学期	8月	5 サービス利用者に応じたコミュニケーション技法の実践②	考查はおこなわない	30
	9月	6 サービス利用者や家族との関係づくり、支援の方法を学ぶ		
	10月	7 サービス利用者や家族との関係づくり、支援の実践		
	11月	8 コミュニケーション教室に向けての準備		
三学期	12月	9 コミュニケーション教室の実践 10 一年間のまとめ	考查はおこなわない	20
	1月			

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の説明や発問はできるだけ分かりやすく的確な言葉で行い、自分で考えた意見を、自分の言葉で発表ができる。 簡単な論述やグループ活動で、協力し合い、他の意見も尊重しながら、行うことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げた事例を、自分の立場に置き換えて考えることができる。 自分の考えを、自分の言葉で発言、論述することができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 立場を理解し、専門的知識を身に付けることができる。 自分で問題点や課題等を考え、主体的に取り組むことができる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 自分で学び得たこと、自分の考えや意見等をまとめ、人前で発表することができる。 自発的にグループ活動に参加することができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業態度、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

この授業では、三年間で培った対人援助の知識・技術を生かし、地域におけるコミュニケーション実践を行います。学びを深めるため、他者への尊重の姿勢、清潔な身だしなみ等に気を配り、意欲的に活動へ参加しましょう。

教科	福祉	科目	課題研究	単位数	3	学年	3	科	生活福祉科
----	----	----	------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

・高齢福祉、障がい福祉、児童福祉における地域の福祉課題を発見し、地域や企業との連携を通して、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

・職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2、使用教科書・副教材

--

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	I 授業オリエンテーション	考查はおこなわない	33
	5月	II 地域福祉研究（調査・研究） テーマ決め、研究方法の検討、年間計画の立案		
	6月	調査・研究の開始		
二学期	7月	III 地域福祉研究（実践①） 高齢、障がい、児童の3分野において、地域や企業と連携した実践活動を行う	考查はおこなわない	42
	8月			
	9月	IV 中間成果発表会		
	10月	V 地域福祉研究（実践②と振り返り） 実践①の内容をブラッシュアップし、各分野において、		
	11月	2回目の実践を行う。		
三学期	12月	VI 成果発表会	考查はおこなわない	30
	1月	連携をした地域の方や企業の方、学科の1，2年生を対象とした成果発表会を行う。		
	2月	VII 課題研究発表会（全校）		
	3月			

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えた意見を、自分の言葉で発表ができる。 グループ活動で協力し合い、他の意見も尊重しながら協力して行うことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉の抱える課題を、自分の立場に置き換えて考えることができる。 自分の考えを、自分の言葉で発言、論述することができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 問題点や課題等を考え、主体的に取り組むことができる。 地域や企業との連携を通して様々な視点から、問題をとらえることができる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 福祉課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決することができる。 自発的にグループ活動に参加することができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業態度、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

この授業では、積極的・協働的な取り組みを大切に考えています。自発的・主体的に学ぶ姿勢で授業に臨んで下さい。

教科	福祉	科目	介護総合演習	単位数	2	学年	3	科	生活福祉科
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術を統合し、課題解決に関する知識と技術を身に付け、施設実習、地域福祉や福祉社会の事例研究、調査などに必要な資質・能力を育む。

2、使用教科書・副教材

--

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	I 授業オリエンテーション	考查は行わない	18
	5月	II 障がい者施設実習オリエンテーション		
	6月	III 障がい者施設実習		
	7月	IV 障がい者施設実習のまとめ		
		V 施設実習発表会		
二学期	8月	VI 分野別グループワーク 進路に関する研究活動①	考查は行わない	32
	9月			
	10月	進路に関する研究活動②		
	11月	進路に関する研究活動③		
三学期	12月	進路に関する研究活動発表会	考查は行わない	20
	1月	VI 三年間の振り返り		

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の説明や発問はできるだけ分かりやすく的確な言葉で行い、自分で考えた意見を、自分の言葉で発表ができる。 簡単な論述やグループ活動で、協力し合い、他の意見も尊重しながら、行うことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げた事例を、自分の立場に置き換えて考えることができる。 自分の考えを、自分の言葉で発言、論述することができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 立場を理解し、専門的知識を身に付けることができる。 自分で問題点や課題等を考え、主体的に取り組むことができる。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 自分で学び得たこと、自分の考えや意見等をまとめ、人前で発表することができる。 自発的にグループ活動に参加することができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業態度、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

この授業では、積極的な取り組みを大切に考えています。自発的・主体的に学ぶ姿勢で授業に臨んで下さい。

教科	福祉	科目	介護福祉基礎	単位数	2	学年	3	科	生活福祉科
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、人間の尊厳を支え自立支援を行うために必要な基礎的な資質・能力を育む。

2、使用教科書・副教材

実教出版「介護福祉基礎」

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	I 授業オリエンテーション	中間考查	1
	5月	II 介護を必要とする人の理解と介護 第2章 障害者の生活と支援		9
	6月	9 地域生活移行 10 就労支援	期末考查	9
	7月	III 介護福祉サービスの概要と連携 第1章 介護サービスの概要 7 障害者支援サービス 8 障害者支援サービスの実際 IV 介護における安全管理と危機管理 第1章 介護における安全確保と事故対策 第2章 感染対策		
二学期	8月	VI 介護を必要とする人の理解と介護 第2章 障害者の生活と支援	中間考查	8
	9月			
	10月	VII 介護における安全管理と危機管理 第2章 感染対策	期末考查	13
	11月	VII 介護における安全管理と危機管理 第3章 介護従事者の健康管理		10
三学期	12月	VIII 介護福祉の担い手 第1章 介護従事者を取りまく状況 第2章 介護従事者の役割	学年末考查	10
	1月			10
	2月			
	3月			

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の説明や発問はできるだけ分かりやすく的確な言葉で行い、自分で考えた意見を、自分の言葉で発表ができる。 簡単な論述やディスカッションを行うことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げた事例を、自分の立場に置き換えて考えることができる。 発問に対する解答、それにいたる思考過程、反応をみる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語やその意味を理解することができる。 履修内容が理解できているか確認する。(考查、発問に対する解答、課題提出等)
技能	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション、発表ができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業態度、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

毎回の授業を大切にす、わからないことに関し積極的に質問するなどといった姿勢を大切にしてください。学習内容を確実に定着させてゆくためにも予習や復習を欠かさず授業に臨んでください。

教科	福祉	科目	生活支援技術	単位数	2	学年	3	科	生活福祉科
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を育む。

2、使用教科書・副教材

実教出版「生活支援技術」
中央法規「生活支援技術Ⅰ」「生活支援技術Ⅱ」

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	1 授業オリエンテーション、	実技考查 期末考查	1
	5月	2 基本的、応用的介護技術（1・2年次の復習）		19
	6月	3 介護技術コンテストに向けての準備		
	7月	4 介護技術コンテスト		
二学期	8月	5 介護教室に向けての準備	実技考查 期末考查	30
	9月	6 介護教室の実践		
	10月	7 ケアコンテストに向けての準備		
	11月	8 ケアコンテスト		
三学期	12月	9 終末期・緊急時の介護		20
	1月			
	2月			
	3月			

4、評価の方法

主體的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の説明や発問はできるだけ分かりやすく的確な言葉で行い、自分で考えた意見を、自分の言葉で発表ができる。 ペアと協力し、コミュニケーションを取ることができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げた事例を、自分の立場に置き換えて考えることができる。 自分の考えを、自分の言葉で発言できる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の立場を理解し、専門的知識を身に付けることができる。 履修内容が理解できているか確認する。(考查、発問に対する解答、課題提出等)
技能	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安楽を意識した、基礎的、応用的な介護技術を習得することができる。 履修内容が理解できているか確認する。(実技考查)
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 授業に積極的に取り組み、わからないことは、自発的に質問ができる。 出席、授業態度、身だしなみ、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

選択科目の授業として、少人数での実施となります。ペアとの協力や連携を大切に授業に臨んでください。また、対人援助の際に必要なマナーや心遣い、身だしなみなどにも注意を払いましょう。

令和4年度 「社会福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	1	履修	必修	
教科	家庭	科目名	社会福祉基礎	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	社会福祉基礎(実教出版)		副教材(発行所)				
目標	① 社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化をふまえた新しい福祉社会を実践する態度を身に付ける。 ② 社会福祉の歴史を理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。 ③ 対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。						

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法	
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ			
1	4	社会福祉の理念と意義	生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> 日本の人口の推移とそれに伴う社会福祉の課題について理解する。 産業構造の変化や地域社会の変化について理解する。 家族の多様化と働き方の変化について理解する。 疾病構造の変化が医療に及ぼす影響と健康増進の取り組みを知る。 人の一生に社会福祉が様々な形で関わっていることを理解する。 	○	○		7	・定期考査 ・レポート ・課題・作品 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み	
	5		社会福祉の理念	<ul style="list-style-type: none"> 福祉の基礎となる理念について理解する。 日本国憲法の人権規定と社会福祉との関わりを学ぶ。 地域社会と社会福祉との関わりについて理解する。 		○		7		
	6		人間の尊厳と新たな福祉社会の創造	<ul style="list-style-type: none"> 基本的価値としての人間の尊厳について理解しよう。 自立生活支援の考え方と今後の展望について理解しよう。 自立生活支援の考え方と今後の展望について理解しよう。 新たな福祉社会と求められる担い手や活動について理解する。 	○	○	○	7		
	7		諸外国における社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉の歴史の流れを理解する。 イギリスの福祉国家の誕生の流れを理解する。 イギリスの福祉国家の危機と改革の歴史を理解する。 アメリカの社会福祉の歴史と特徴を理解する。 北欧の社会福祉の歴史と理念について理解する。 ドイツとフランスの社会保障の歴史を理解する。 アジア諸国の社会福祉の歴史と課題について理解する。 	○			5		
2	8	社会福祉の歴史と次世代の展望	日本における社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> 慈善事業や社会事業が生まれた社会背景について理解する。 第二次世界大戦後の社会保障の基礎を作った経緯を理解する。 戦後の社会福祉制度の構築の過程と理念について理解する。 国民年金と皆保険の成立、福祉六法体制確立の背景を理解する。 在宅福祉の充実をめざす福祉改革の背景を理解する。 子どもおよび家庭への支援施策の拡充の歩みを理解する。 障害者施策の拡充の歩みを理解する。 近年の福祉の大きな変化と今後の福祉社会のあり方を考える。 	○			7	・定期考査 ・レポート ・課題・作品 ・授業に対する主体的、協働的な取り組み	
	9			社会保障制度の意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障制度の基本的な考え方、各制度の内容について理解する。 社会保障制度を推進する機関とその役割について理解する。 	○	○			4
	10			子ども家庭福祉	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の児童福祉法から、現代社会の子育て支援までの推移を知る。 児童相談所と市町村の役割と機能、地域社会の関わりを理解する。 	○				3
	11			子ども家庭福祉	<ul style="list-style-type: none"> 保育所の歴史と現代の保育所の課題について理解する。 不登校や非行の傾向とその対応策について理解する。 子どもの貧困、社会的擁護や児童虐待について理解する。 障害のある子どものための法律と福祉サービスについて理解する。 子どもの権利条約の内容と社会への影響について理解する。 	○	○	○		6
	12			高齢者福祉と介護保険制度	<ul style="list-style-type: none"> 日本の高齢化の実態と課題について理解する。 介護保険制度の目的と内容について理解する。 介護保険制度の見直しの内容とその背景について理解する。 高齢者の在宅サービス(福祉系・医療系)の概要を理解する。 介護保険制度における地域密着サービスや施設サービスの概要を理解する。 老人福祉施設と高齢者向け住宅について理解する。 認知症高齢者の特徴とその支援策について理解する。 高齢者福祉の課題と今後の方向性について理解する。 	○	○	○		14
3	1	生活を支える社会福祉・社会保障制度	高齢者福祉と介護保険制度						・定期考査 ・レポート ・プレゼン ・授業に対する主体的、協働的な取り組み	
	2									
	3									

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	70					30						100	60
Ⅱ 思考・判断・表現	20				30	20	30					100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	20				20			30	30			100	20
評価の重点	①社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けているか。 ②社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けているか。 ③健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。												

令和4年度 「介護福祉基礎」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	1	履修	必修	
教科	福祉	科目名	介護福祉基礎	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	介護福祉基礎(実教出版)			副教材(発行所)			
目標	① 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得させる。 ② 介護の現代的意義や役割について考えさせ、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解させる。 ③ 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。						

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法		
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ				
1	4	オリエンテーション	1. 介護の意義、役割、尊厳を支える介護 2. 利用者主体の介護サービス 3. 介護を必要とする高齢者の人権と尊厳 4. 介護を必要とする障害者の人権と尊厳	・ 基本的人権の尊重の実現を目指した介護の意義や役割を理解し、生活の質を高める介護について考察する。 ・ 利用者主体の介護の実現のため、自己決定の重要性を理解し、自己決定に向けた支援について考察する。 ・ 高齢者虐待の種類や防止策について理解し、高齢者虐待が起こる背景について考察する。 ・ 障害者の権利擁護に関する条約や障害者虐待の背景について考察する。	○	○		14	・ 学習レポート、ノート ・ ワークシート ・ 編末問題		
	5	第1編 介護の意義と役割 第1章 尊厳を支える介護									
	6	第2章 自立に向けた支援			・ 介護分野における自立のあり方について理解し、その本質や介護従事者としての関わり方を考察する。 ・ 基本的人権の尊重を意識しながら、ICFモデルへの改訂が行われた背景を理解し、利用者のQOLを高める方法や虐待防止策について考察する。	○				○	14
7	自立に向けた支援										
2	8	第3編 介護を必要とする人の理解と支援	1. 観察 2. コミュニケーション 3. 介護技術の基本 4. 居住環境の整備 5. 移動の支援(1) 6. 移動の支援(2) 7. 食事の支援 8. 排せつの支援 9. 身じたくの支援 10. 入浴の支援 11. 睡眠・休養の支援	・ 介護が必要な人たちの自立した生活を目指して観察することの意義を理解し、場面に応じた観察すべきポイントを学ぶ。 ・ コミュニケーションの種類や方法、目的を理解し、信頼関係の構築に必要な基本的態度や他の職種との連携を考察する。 ・ 介護者や利用者の双方のためにボディメカニクスを生かすことを理解し、より効果的に行うための方法について学ぶ。 ・ 利用者の自立した生活のために安全な環境づくりの方法を学ぶ。 ・ 移動することについての意義や目的を理解し、日常生活との関連や具体的な支援の方法を学ぶ。 ・ 利用者の状態に適切な福祉用具を理解し、実践を通してより良い車いすの移動支援を考察する。 ・ 食事の意義や目的を理解し、食べることの楽しみをふまえて、安全な食事支援を考察する。 ・ 排せつの意義や目的を理解し、利用者の状態に応じた安全な排せつ行為の支援を考察する。 ・ 身じたくを整えることについての意義や目的を理解し、状態に応じた安全な着脱の支援を学ぶ。 ・ 清潔を保つことについての意義や目的を理解し、状態に応じた安全な入浴の支援を学ぶ。 ・ 睡眠や休養の意義や目的を理解し、利用者の状態に応じた睡眠や休養の支援を考察する。	○	○		10	・ 学習レポート、ノート ・ ワークシート ・ 編末問題 ・ 小テスト ・ 定期考査 ・ 授業に対する主体的、協働な取り組み		
	9	第4章 介護を必要とする人の生活を支える支援									
	10	移動の支援(1) 移動の支援(2)				○	○			○	8
	11	食事の支援 排せつの支援 身じたくの支援				○	○			○	
	12	入浴の支援 睡眠・休養の支援				○	○			○	6
	3	1			第3編 介護を必要とする人の理解と支援	1. 介護サービスの利用方法 2. 介護サービスの場の特性(在宅) 3. 居宅介護サービス 4. 地域密着型サービス	・ 介護保険制度の目的を理解し、ケアマネジメント業務や利用できるサービスを学ぶ。 ・ 介護保険制度における居宅サービスの役割や特徴を理解した上で、在宅介護をとりまく課題を学ぶ。 ・ 福祉系や医療系の居宅介護サービスの種類や利用者や家族の意向に沿ったサービスの選択を学ぶ。 ・ 地域密着型サービスの役割や種類を理解し、地域との交流や介護予防の観点からふまえたサービスのあり方を学ぶ。			○	
2	第5章 介護福祉サービスの概要										
3											

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能	60	20				20						100	50
Ⅱ 思考・判断・表現			20		20	20	20	20				100	30
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					20	10	20	20	20	10		100	20
評価の重点	①介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する介護技術を身に付けている。 ②介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。 ③より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。												

教科	家庭	科目	生活産業基礎	単位数	2	学年	1	科	生活福祉
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	------

1、科目の目標

生活と産業とのかかわりを理解し、職業などへの関心を高めるとともに、必要な知識を習得する。

2、使用教科書・副教材

実教出版「生活産業基礎」

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	「生活産業基礎」を学ぶにあたって ○私たちの生活と「生活産業」 ・生活と産業とのかかわり ・生活産業とは ・消費者ニーズと生活産業	レポート 期末考查	1 8
	5月	・社会の変化と生活産業の発展 ○「生活産業」のスペシャリストになるために		4
	6月	・スペシャリストに求められるもの ・スペシャリストへの道 ○生活に対応した商品・サービスの提供 ・消費者ニーズの把握 ○「生活産業」に関する時事問題について		3 2
二学期	7月	○調査・研究(いろいろな職業について)	レポート	10
	8月	・レポート作成 ・レポート発表 ○生活に対応した商品・サービスの提供		
	9月	・商品サービスの企画及び販売提供 ・関連法規		5
		○ヒューマンサービス関連分野の産業と職業 ・社会の変化とヒューマンサービス		10
	10月	・ヒューマンサービス関連産業の職業と資格 ○労働者に関する法律等(巻末 参考資料)		4
	11月	○衣生活関連分野の産業と職業 ・エコロジーとファッション、生活に役立つ小物製作	期末考查	3
三学期	12月	○住生活関連分野の産業と職業 ・現代の生活・生活課題と住まい ○職業生活と自己実現	学年末考查	3 10
	1月	○災害時における生活支援		4
	2月			3
	3月			

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への発問解答など対話形式を大切にして授業を進める 授業内容の説明や発問はできるだけわかりやすく的確な言葉で行い、生徒にも同様の視点に立って解答をするように指導する 時には扱う内容に簡単な論述や討議および説明等ディベート的な形態も取り入れる
思考・判断・表現	出席、授業態度、反応等、様々な角度から積極性を観る
知識・理解	発問に対する解答やそれに至る思考過程および反応を観る
技能	あいさつ・態度など職業人としてふさわしい基礎・基本が身に付いているか観る
関心・意欲・態度	定期考查・課題・レポート発表等で総合的に評価する

5、学習にあたっての注意とアドバイス

将来職業人となる自分をイメージし、積極的に調べたり、学習する姿勢をつくる

令和4年度 「 介護総合演習 」 学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	1	履修	必修	
教科	家庭	科目名	介護総合演習	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）			副教材（発行所）				
目標	①地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ②地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決策を探索し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。						

（注）評価の観点、I「知識・技術」II「思考・判断・表現」III「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法		
					I	II	III				
1	4	施設実習に向けた学習	1 施設実習 オリエンテーション① (高齢者施設を知る)	<ul style="list-style-type: none"> 施設実習の意義と目的を理解するとともに、実習の内容や実習期間を把握する。 実習施設（高齢者施設）の概要や、施設における介護職員の主な業務内容について理解する。 	○			3	<ul style="list-style-type: none"> レポート 実習に関する課題 身だしなみ 授業に対する主体的、協働な取り組み 		
	5				○	○	○	3			
	6				2 施設実習 オリエンテーション② (実習記録の記入方法)	<ul style="list-style-type: none"> 客観的な記録により利用者理解につながることを理解するとともに、適切な記録の書き方を学ぶ。 個人情報の保護の重要性について理解する。 	○	○			4
	7				3 実習への課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 実習の目標を設定するとともに、実習評価について理解することより、主体的に介護実習に取り組む姿勢を身につける。 	○	○		○	4
2	8	施設実習に向けた学習	4 施設実習 事前準備① (コミュニケーション、 接遇マナー)	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者として人間形成に必要なコミュニケーションの意味と役割について理解する。 利用者の尊厳を守り、信頼関係を気づくための接遇マナーを身につける。 	○	○		2	<ul style="list-style-type: none"> レポート 実習に関する課題（実習記録） 身だしなみ 授業に対する主体的、協働な取り組み 		
	9		5 施設実習 事前準備② (認知症に関する学習、 レクリエーション)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症および認知症の人を理解し、コミュニケーションに必要な知識を身につける。 利用者支援に必要な個別レクリエーションや集団レクリエーションは持つ意味を理解する。 	○		○	3			
	10		6 レクリエーション計画の 作成	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の心身の状態に合わせたレクリエーションの計画手法を学ぶ。 	○			3			
	11		7 施設実習	<ul style="list-style-type: none"> 介護の場における基本的な介護技術を実践し、習得する。 実践を通じ、自立生活支援のために介護が提供されていることを理解する。 実践を通じ、利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションの技法を習得する。 	○	○	○	3			
	12		8 実習報告会	<ul style="list-style-type: none"> 自らの体験を振り返り、自己の実践上の課題等を再認識することで、今後の学習に生かしていく主体性を身につける。 実習での学びを仲間と共有することで、福祉の多様性について考察する。 	○	○	○	3			
3	1	施設実習のまとめ	9 福祉に関する 専門職 (調査)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する専門職の資格とその専門性、キャリア形成のあり方について調べる。 	○			3	<ul style="list-style-type: none"> レポート 発表プレゼン 身だしなみ 授業に対する主体的、協働な取り組み 		
	2		10 福祉に関する 専門職 (発表)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する専門職について調べた内容を仲間と共有することで、より良い支援のために必要な職種連携について考察する。 	○	○	○	3			
	3		11 学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の学習成果をレポートにまとめる。 	○	○	○	1			

35

【観別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観別合計	評価の比重
I 知識・技能			50			30	20					100	50
II 思考・判断・表現			30		20		40	10				100	30
III 主体的に学習に取り組む態度			20		20		20	20	10	10		100	20
評価の重点	①サービス利用者や施設の社会的役割について理解するとともに、福祉施設で求められる基本的な支援を実践する知識や技術が身につけているか。 ②地域福祉や福祉社会に関する課題を解決するために必要な、援助者としての倫理観と、合理的かつ創造的に解決する能力が身につけているか。 ③主体的かつ協動的に学ぶことができているか。援助者としてふさわしい接遇マナーが身につけているか。												

令和4年度 「生活支援技術」学習指導計画

学科	生活福祉科		学年	1	履修	必修	
教科	家庭	科目名	生活支援技術	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	生活支援技術(実教出版)		副教材(発行所)	生活支援技術Ⅰ・生活支援技術Ⅱ(中央法規)			
目標	① 自立生活の支援について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ② 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。						

(注) 評価の観点は、Ⅰ「知識・技術」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	自立に向けた生活支援	1 介護技術の基本 ボディメカニクス	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽で潜在的能力を引き出すための介護技術の基本について、関節可動域やボディメカニクスを活用する意義を理解し、関連する技術を身に付ける。	○		○	5	・実習レポート ・実技テスト ・身だしなみ ・小テスト ・授業に対する主体的、協動的な取り組み
	5		2 居住環境の整備 ベッドメイキング	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で快適な居住環境の整備について理解するとともに関連する技術を身に付ける。	○	○	○	10	
	6								
	7		3 移動の支援 車いすの介助	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な移動を支援する知識や技術を身に付ける。	○		○	5	
2	8	自立に向けた生活支援	4 身じたくの支援 前開き上衣の着脱 かぶり上衣の着脱 スポンの着脱	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な身じたくの支援について理解する。衣服の着脱の意義や目的、身じたくへの意欲や装いの楽しみ、その人らしさの表現としての身だしなみの支援について、知識や技術を身に付ける。	○		○	10	・実習レポート ・実技テスト ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協動的な取り組み
	9								
	10		5 食事の支援	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で楽しい食事の支援について理解する。食事の意義や目的、食べる意欲を支える支援方法を身に付ける。	○	○	○	6	
	11		6 移動の支援 上方移動 水平移動 仰臥位から側臥位 仰臥位から端座位 端座位から立位 杖歩行の支援	サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な移動を支援する知識や技術を身に付ける。	○	○		16	
3	1	自立に向けた生活支援	7 介護技術コンテスト	課題事例に対する取組を行う中で、様々な介護場面において、適切かつ安全に支援できる知識や技術を身に付ける。				18	・コンテスト ・実習レポート ・身だしなみ ・授業に対する主体的、協動的な取り組み
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	考査	小テスト	実習	実技テスト	レポート	課題・作品	発表 プレゼン	グループ ワーク	授業の姿 勢	身だしなみ	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		20		60	20							100	50
Ⅱ 思考・判断・表現				20	50	20		10				100	30
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度					30				30	40		100	20
評価の重点	① サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な支援のための知識や技術が身に付いているか ② 「安全・安楽」「個人の尊厳」など、サービス利用者の課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身に付いているか。 ③ 主体的かつ協動的に学ぶことができているか。支援者としてふさわしい身だしなみを常に整えることができているか。												

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	2	学年	2	科	生活福祉科
----	----	----	------------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

介護を実践するために必要なこころとからだについての基礎的な知識を習得するとともに、高齢者や認知症、障害について基礎的な理解を深め、これからの介護ニーズに対応できる能力を養う。

2、使用教科書・副教材

・実教出版「こころとからだの理解」

3、学習の計画

		学習の内容	考査範囲	予定 時数
一 学 期	4月	1 授業オリエンテーション	期末考査	1 9
	5月	2 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 生活動作に関するこころとからだのしくみ		8
	6月	生活に関するこころとからだの特徴		
	7月			
二 学 期	8月	3 人間の成長と発達の基礎的知識 高齢者と健康	期末考査	16
	9月	3 認知症の理解 認知症に伴う心身の変化と日常生活		16
	10月	認知症と地域サポート		
	11月			
三 学 期	12月	4 障害の理解	学年末考査	10
	1月	障害の基礎的理解		10
	2月	生活機能障害の理解		
	3月	障害に伴う心身の変化と日常生活 障害と地域生活支援		

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に質問を行うことができる。 ・簡単な論述やディスカッションを行うことができる。
思考・判断・表現	・自分の考えを自分の言葉で表現し発表することができる。
知識・理解	・履修内容が理解できているか確認する。(考査、発問に対する解答、課題提出等)
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・板書のみでなく、自主的にノートにまとめることができる。 ・ディスカッションや発表ができる。
関心・意欲・態度	・出席、授業態度、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

介護に携わる者として、人体の構造や疾病・障害・認知症の理解といった「こころとからだのしくみ」の知識は必要不可欠です。また、2年次では高齢者施設実習、3年次では障害者施設実習が行われるため、学習で得た知識を介護実習及び介護実践で適切に活用できるよう、積極的に取り組みましょう。

教科	福祉	科目	コミュニケーション技術	単位数	2	学年	2	科	生活福祉科
----	----	----	-------------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

対人援助を行う上での、関係づくりや知識と技術を習得させ、社会福祉援助活動に活用する能力と態度、また応用力を育てる。

2、使用教科書・副教材

実教出版「コミュニケーション技術」

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	1 授業オリエンテーション	期末考查	9
	5月	2 コミュニケーションの意義と役割		
	6月	3 サービス利用者に応じたコミュニケーション 児童とのコミュニケーション		
	7月			
二学期	8月	4 高齢者とのコミュニケーション	期末考查	16
	9月			
	10月	5 記録		
	11月			
三学期	12月	6 福祉機器展への参加	学年末考查	10
	1月	7 障がいとコミュニケーション		
	2月			
	3月			

4、評価の方法

主体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に質問を行うことができる。 ・簡単な論述やディスカッションを行うことができる。
思考・判断・表現	・自分の考えを自分の言葉で表現し発表することができる。
知識・理解	・履修内容が理解できているか確認する。（考查、発問に対する解答、課題提出等）
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・板書のみでなく、自主的にノートにまとめることができる。 ・ディスカッションや発表ができる。
関心・意欲・態度	・出席、授業態度、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

高齢者や障害者についての対人援助の基本となる考え方を養ってほしい。施設実習に向けて学ぶ、コミュニケーション技法を日頃の生活にも役立ててほしい。

教科	福祉	科目	介護総合演習	単位数	1	学年	2	科	生活福祉科
----	----	----	--------	-----	---	----	---	---	-------

1、科目の目標

- (1)地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
 (2)地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
 (3)健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2、使用教科書・副教材

--

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	1 授業オリエンテーション		
	5月	2 子育て支援について（子どもの発達と遊びについて知る）		4
	6月	3 幼稚園体験実習オリエンテーション		
	7月	4 幼稚園体験実習 5 幼稚園体験実習の振り返り		5
	二学期	8月	6 高齢者施設実習事前オリエンテーション	
9月		7 高齢者施設実習		5
10月		8 お礼状作成		5
11月		9 実習報告会準備（施設紹介、学んだこと、実技動画）		
三学期		12月	10 高齢者施設実習報告会	
	1月	11 福祉に関する諸課題についての調べ学習		
	2月	12 調べ学習報告会		6
	3月			

4、評価の方法

主体的な言語活動	・授業内容の説明や発問はできるだけ分かりやすく的確な言葉で行い、自分で考えた意見を、自分の言葉で発表ができる。
思考・判断・表現	・校外実習が適切かつ総合的に展開できるよう、実習の意義や目的などを理解しているか
知識・理解	・校外実習を通して、個人情報保護やリスクマネジメントなどについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を身につけることができたか
技能	・探究の成果物を、わかりやすく的確にまとめ、発表できているか
関心・意欲・態度	・授業に積極的に取り組み、わからないことは、自発的に質問ができる。 ・出席、授業態度、身だしなみ、反応等、授業に対して意欲的に取り組むことができる。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

毎回の授業を大切に、わからないことに関し積極的に質問するなどといった姿勢を大切にしてください。対人援助の際に必要なマナーや心遣い、身だしなみなどにも注意を払い授業に臨んで下さい。